

いのちの葉

少しずつ
少しずつ

竹本
崇嗣

目次

少しずつ 少しずつ	4
必ずあなたを待っています	8
私の心の善悪に関係なく	12
これ見よがしの善	16
死んだら終わり？	20
絶望が歓喜に転じられる	24
いかなる悪も行つ私が	28
私を根底から支える	33
常に移り変わる私の心	38
その日暮らしの私のために	43

ふつづつ ふつづつ

無明むみやうの酔よひもやうやうすこしづつさめ、三毒さんどくをも
すこしづつ好このまずして

『親鸞聖人御消息』

母の後ろ姿を

近所に本願寺派のお寺がないという方が、隣の市からお参りに来られました。お話ししていると、「数年前に百一歳の母を亡くし、お仏壇で朝夕のおつと

めをするようになりました。正直に言いますと、それまでは仏事に関心があつたわけではないのです」ということでした。

それでも、いつか引き継がなければと、母の後ろ姿を見ていたそうで、「母と同じように朝夕のおつとめとお給仕を続けてみると、次第に日々の習慣となり、家を空ける時は何となく落ち着かない」と笑われました。

ただ、「母は、いつもお浄土に生まれさせていただくことをよるこんでいましたが、自分はそのような気持ちにはまだなれない」「朝夕のおつとめは、自分が引き継がなくてはならないという義務感が強い」「いつか母のように、仏さまにならせていただくことをよるこぶ自分になれるのだろうか」と心配されていました。

朝夕のおつとめとお給仕を通して、自らと向き合う大切な時間を過ごしておられるのだ、と聞かせていただきました。

変化しながらの生

三毒とは貪欲・瞋恚・愚痴のこと。親鸞聖人のこのお言葉は、「積尊と阿弥陀仏の巧みな手だてに導かれて、今は阿弥陀仏の本願を聞き始めるようになった」私たちが、「迷い（無明）と、むさぼり（貪欲）・いかり（瞋恚）・おろかさ（愚痴）を少しずつ好まないようになり、阿弥陀仏の業を常に好むようになって」いく様子を明らかにされています。

このお言葉をいただく時、大切にしたいのが「すこしづつ」という言葉です。とどまることなく変化し続ける無常の世を、やはり変化しながら生きていかにざるを得ない私たちにとって、「変わる」ということは切り離せない現実です。しかし、その変化は一様のもではなく、コインの表が裏になるようなわかりやすいものもあれば、長い階段を一段ずつ登ったり降ったりするようなわかりにくいものもあるでしょう。

聖人のみ跡を慕うように、ご往生されたお母さまの後ろ姿にならう、おつとめと変化の日々をこれからも重ねていただきたいと念じることができました。